

1. 略歴

1983年3月	東京大学文学部国文学専修課程卒業
1983年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程入学
1986年3月	同 修了
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程進学
1990年3月	同 単位取得退学
1990年4月	帝塚山学院大学文学部専任講師
1994年4月	帝塚山学院大学文学部助教授
1995年4月	東京女子大学文理学部助教授
2003年4月	東京女子大学文理学部教授
2007年12月	東京大学大学院人文科学研究科 国語国文学専門課程 博士（文学）学位取得
2009年4月	東京女子大学現代教養学部教授（改組による学部名変更）
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本上代文学・和歌文学

b 研究課題

上代（奈良時代以前）日本文学を、韻文中心に研究している。特に『万葉集』の歌人、柿本人麻呂や、大伴家持の作品について、その読み直しを課題としている。『万葉集』の和歌は、中国の先進文明に正面から向き合って成立した日本という国家における草創期の文芸であり、漢詩文の表現に対して、学びつつ対抗するという両義的な関係を結んでいる。それゆえ、当時伝来していた六朝・初唐の漢詩文との比較・対照を主たる研究方法として、和歌独自の表現を明らかにしつつ、その価値を見出すことを論文執筆の際の、目標としている。更に『万葉集』は、7世紀前半から、8世紀中ごろまでの和歌の歴史を語る書物であると考えられ、歌人たちの積み重ねた作品群がいかなる軌跡を描くか、すなわち『万葉集』の和歌史を明らかにすることを、研究全体の目標とする。

c 主要業績

(1) 著書

『大伴家持「歌日誌」論考』塙書房、2007年1月、507p.

(2) 論文

「人麻呂における聴覚と視覚—「み山もさやかに」をめぐって—」小島憲之監修、伊藤博・稲岡耕二編『萬葉集研究』17集、塙書房、1989年11月、pp.83-119

「「秋立待」をめぐって」『帝塚山学院大学日本文学研究』22号、1991年2月、pp.1-13

「人麻呂泣血哀慟歌の異伝と本文—「宇都曾臣」と「打蟬」—」『萬葉』141号、1992年1月、pp.32-48

「斉明紀建王悲傷歌の抒情について—「おもしろきいまきのうち」小考—」『帝塚山学院大学研究論集』26集、1992年12月、pp.14-27

「天智天皇と鏡王女の贈答歌について」『東京女子大学日本文学』84号、1995年9月、pp.19-34

「「国見的望郷歌」試論」『東京女子大学日本文学』85号、1996年3月、pp.1-18

「「国見歌」覚書」『国文学解釈と鑑賞』62巻8号、1997年8月、pp.66-71

「家持集と万葉歌」鈴木日出男編『ことばが拓く古代文学史』、笠間書院、1999年3月、pp.58-75

「舒明天皇の望国歌」神野志隆光・坂本信幸編『セミナー万葉の歌人と作品』1巻、和泉書院、1999年5月、pp.61-75

「初期万葉の（抒情）試論」稲岡耕二編『声と文字 上代文学へのアプローチ』、塙書房、1999年11月、pp.103-122

「花鳥諷詠長歌」試論 井手至先生古稀記念会編『井手至先生古稀記念論文集 国語国文学漢』、和泉書院、1999年12月、pp.356-376

「日本挽歌」神野志隆光・坂本信幸編『セミナー万葉の歌人と作品』5巻、和泉書院、2000年9月、pp.34-52

「「袖振り」考—「石見相聞歌」を中心に—」西宮一民編『上代語と表記』、おうふう、2000年10月、pp.716-732

「「著けし紐解く」考—万葉集・二六二七歌をめぐって—」『東京女子大学日本文学』95号、2001年3月、pp.13-36

「「神語」をめぐって」伊藤博・稲岡耕二編『萬葉集研究』26集、塙書房、2004年4月、pp.265-295

- 「シンポジウム「古代文学にとって東国とは何か」司会の記」『上代文学』94号、2005年4月、pp.52-60
- 「作歌と文字表現—「吾等」をめぐる—」平川南・栄原永遠男・沖森卓也・山中章編『文字と古代日本』5巻、吉川弘文館、2006年2月、pp.68-86
- 「藤原麻呂と大伴坂上郎女の贈答歌」『東京女子大学日本文学』102号、2006年3月、pp.1-19
- 「<想起的地名表現>試論」萬葉七曜会編『論集上代文学』29冊、笠間書院、2007年4月、pp.51-79
- 「恋はすべなし—萬葉集の〈恋〉—」『文学』8巻5号、2007年9月、pp.46-56
- 「佐用姫歌群をめぐる—巻五の歌群構成—」稲岡耕二監修、神野志隆光・芳賀紀雄編『萬葉集研究』29集、塙書房、2007年12月、pp.47-79
- 「人麻呂歌集七夕歌の「告」」『美夫君志』76号、2008年3月、pp.1-17
- 「「陳私拙懐」歌をめぐる」『萬葉』202号、2008年8月、pp.39-59
- 「序詞とナクニ止め」『国語と国文学』85巻9号、2008年9月、pp.1-15
- 「歌人論」のために—「山柿之門」と「山上之操」—『上代文学』102号、2009年4月、pp.1-15
- 「『雑集』「鏡中積霊実集」の意義と注解の成果」東京女子大学古代史研究会編『聖武天皇宸翰『雑集』「積霊実集」研究』、汲古書院、2010年1月、pp.587-594
- 「山部赤人「登神岳作歌」試論」『叙説』（奈良女子大学）37号、2010年3月、pp.57-71
- 「万葉集巻七・人麻呂歌集「巻向・三輪歌群」試論」『上代文学』105号、2010年11月、pp.44-58
- 「歌人家持と官人家持—鵜飼・鷹狩の歌をめぐる—」高岡市万葉歴史館編『大伴家持研究の最前線』（高岡市万葉歴史館叢書23）、2011年3月、pp.63-84
- 「『万葉集』第Ⅲ・Ⅳ期」鈴木健一・鈴木宏子編『和歌史を学ぶ人のために』、世界思想社、2011年8月、pp.23-41
- 「「妹勢能山」考」『東京女子大学日本文学』108号、2012年3月、pp.23-37

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

羽衣学園短期大学文学科
 青山学院大学文学部
 大谷女子大学文学部
 お茶の水女子大学文教育学部
 聖心女子大学文学部
 中央大学文学部
 成蹊大学文学部
 慶應義塾大学文学部
 立教大学文学部
 早稲田大学文学学術院（大学院）

(2) 学会

上代文学会常任理事
 萬葉学会編集委員